

美術の表現・技法・材料に関する多角的研究 (①企04-15-5/5)

目 的

本研究は彫刻や絵画といった様々な美術作品を構成する材料やそこに用いられた技法、ひいては表現、その制作過程、作品の成り立ち、生成されてから今日に至ったか、それがどのように受容されてきたか等を、関連諸分野と連携しながら多角的に分析し、現在目の前にある「作品」ないしは文化財に対するより深い理解を形成することを目的としている。

成 果

1. 作品・関係資料の調査・研究

今年度は以下の各機関・所在地にて各種の文化財を調査または研究を実施した。

- ア) 真珠科学研究所との螺鈿器使用貝種特定を目指した共同研究
- イ) 当所が所蔵するガラス乾板及びX線フィルムのデジタル化
- ウ) 柳澤孝氏寄贈資料および、南・西アジア画像資料の整理とデータベース化
- エ) サントリー美術館所蔵漆器類の調査
- オ) 松岡山東慶寺所蔵漆器類の調査

2. 研究会等での発表・成果報告

- ア) 企画情報部研究会での志村明氏・秋本賀子氏による伝統的絹生産技術および画絹に関する研究発表
- イ) 先年来調査検討を行なっている東京国立博物館蔵「普賢菩薩像」について『美術研究』416号誌上での論文による成果発表
- ウ) サントリー美術館での調査内容について『美術研究』417号誌上での論文による成果発表
- エ) 昨年度愛知県陶磁美術館で調査を実施した個人蔵朝鮮製・中国製螺鈿漆器の編年的位置づけについて論文報告

3. デジタル化したガラス乾板及びX線フィルム、また美術作品年紀資料について文字データの確認・整理・補筆作業を行なった上で、順次ウェブサイトへアップして公開した。

論文

- ・小林達朗「東京国立博物館蔵国宝・普賢菩薩像の表現および平安仏画における「荘厳」」『美術研究』416 pp.1-15 15.8
- ・小林公治「南蛮漆器書見台編年試論」『美術研究』417 pp.43-64 16.1
- ・小林公治「15-17世紀朝鮮螺鈿漆器編年および日本製螺鈿器との並行関係検討」『鹿島美術研究年報』第32号別冊 鹿島美術財団 pp.481-492 15.11

発表

- ・志村明・秋本賀子「絹生産における在来技術について」企画情報部研究会 15.9

研究組織

- 小林公治、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、二神葉子、小林達朗、皿井舞、安永拓世、橘川英規、城野誠治（以上、企画情報部）、江村知子（文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）



志村・秋本氏の研究発表風景